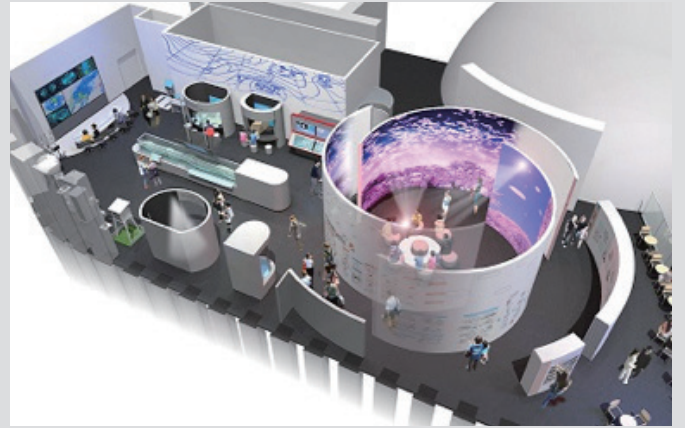


Topics

気象科学館 リニューアルオープン!

気象庁では、気象、地震・津波、火山等について学ぶことで防災知識を習得できる普及啓発施設として、気象庁本庁庁舎内で気象科学館を運営してきました。令和2年度に気象庁本庁庁舎が移転となることから、気象科学館も移転し、この春にリニューアルオープンします。

新しい気象科学館では、体感型のシアターや天気予報の体験などを通して防災・減災について学ぶことができます。また、従来の気象科学館で愛されていた津波シミュレーターや緊急地震速報トライアル、積雪深計により身長計測などの展示も引き続きお楽しみいただけます。また港区立みなと科学館やプラネタリウム(有料/121席)も、あわせて見学、体験することができます。



入場料/無料

開館時間/午前9時～午後8時

休館日/毎月第2月曜、年末年始(12月29日～1月3日) ※臨時休館有あり

所在地/〒105-8431東京都港区虎ノ門3-6-9気象庁2階 気象科学館

納入事例

全国主要空港へ可搬型航空統合 気象観測システムを納入

2020年3月、全国の主要空港6カ所(新千歳、仙台、羽田、関空、福岡、那覇)へ可搬型航空統合気象観測システムを納入させて頂きました。

2018年、非常に強い勢力で日本に上陸した台風21号は人的被害をもたらしただけでなく、暴風で流されたタンカーが関西国際空港の連絡橋に衝突したほか、ターミナルや滑走路の至る所で浸水被害が発生しました。当時、気象庁の航空気象観測システムにも浸水被害が発生し復旧まで日数を要したことを受け、今後、異常気象などの影響で更なる甚大な被害を受けた空港において気象観測を迅速に再開し、航空機の運航に必要な観測を早急に再開するためのシステムの整備が必要となり、移動設置が可能な可搬型航空統合気象観測システムを気象庁殿と構築して整備致しました。

このシステムは、航空気象観測で必要とされる風向風速、気温、露点温度、雨量、雲底高度、RVR(視程)を観測します。

空港内の被害状況に応じて各機器は設置場所を臨機応変に選択できる様、長距離無線方式を採用し、商用電源が使用できないケースを想定してバッテリーにより、3日間の観測が行えるよう設計しています。観測データは、既存の中央処理システムと連携して通報されるので、現用の観測装置のデータ品質ならびに運用レベルを確保できるシステムとなっています。



関西国際空港

